

特集 地域福祉活動の模索と実践 コロナ禍でも一步を踏み出す



のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo



富岸小学校4年生の出前福祉講座の様子です。身体障がい、視覚障がい、聴覚障がい、高齢者について講師と学び、地域には様々な人が一緒に暮していることを深め合いました。

CONTENTS

- P2,3 特集 地域福祉活動の模索と実践
- P4,5 歳末たすけあい募金にご協力ください
- P6 鷺別小学校区きずな推進委員会
子ども食堂開催を目指して、寄付金一覧
- P7 受賞者の皆様のご紹介
- P8 まごころお届けプロジェクト、地元企業の社会貢献
本会職員の不祥事についてのお詫び



2022
11.01 No.158

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
[事務局] 登別市片倉町6丁目9番地1 登別市総合福祉センターしんた21内
[TEL] 0143-88-0860
[FAX] 0143-88-4546
[mail] info@kizuna-shakyo.jp
[HP] https://kizuna-shakyo.jp
[Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

特集

地域福祉活動の模索と実践 〜コロナ禍でも一歩を踏み出す〜

コロナ禍が数年続く中、市内の地域福祉活動は自粛や再開を繰り返しながら行われています。

これまで大切に育んできた「地域のつながり」は、どんな活動を進めていくにも、大切な「土台」となるものです。それらが希薄になることで、地域や社会の抱える課題の深刻化が危惧されています。

登別社協では、「第4期登別市地域福祉実践計画（愛称きずな計画）」に基づきながら、できる時にできることから少しずつ活動の継続や再開が広がっていくようお手伝いしています。

「コロナ禍のきずなを学び合う研修会開催」

登別社協ではこれまで、市内で行われるふれあい・いきいきサロンを通じて住民と関わり、介護予防等の視点を持ちながら地域課題に向き合う「サロンサポーター」の養成と資質向上を目的に、サロンサポーター連絡会を定期開催してきました。

8月22日、登別市民会館大ホールを会場に「コロナ禍のきずなを学び合う研修会 兼 2022年度第1回サロンサポーター連絡会」として2年半ぶりに開催し、広く市民と学び合いたい内容であることから町内会役員や民生委員・児童委員、ボランティア団体等の地域福祉活動者へも周知し、140名の参加がありました。

講師に社会福祉法人アンビ

シャス理事長で北海道医療大学非常勤講師の長谷川 聡氏を迎え、「ウィズコロナの地域活動」模索から実践に向けての「一歩」と題し、コロナ禍で活動を継続・再開するにあたって大切にしたい視点についてご講義をいただきました。長谷川先生自身も地域福祉活動の実践者であり、どういった工夫があれば継続や再開ができそうか模索しながら、恐れるばかりでなく前を向いていこうとエールを送る内容でした。

また、社協事務局からコロナ禍での活動のヒントを紹介し、できる時にできることから取り組んでみてもらいたいこと、感染リスクが高く思うように動けない時期には、今後に向けて考えるだけでも一歩前進であることをお伝えしました。

参加者からは「これまでの自分たちの活動は間違っていないかったのだと思えた」、「会館の使用制限等、まだ思うようにいかない状況が続くが、一歩を踏み出していききたい」といった声が聞かれ、前向きな気持ちが芽生える一日となりました。



活動のヒントの一例

「オンラインの活用」

オンラインでの会議や研修会も主流となりましたが、まだ自信がないという方も多いかもしれません。登別社協では必要な機材の貸し出しや、オンライン参加のお手伝いを行っています。

また、オンラインを活用することで、これまでの活動の利便性を高めたり、より充実を目指すことができます。



「きずな安心キットの台帳更新」

一人暮らし高齢者等に向けた「きずな安心キット」は、きずなづくり台帳に自身のかかりつけ病院や緊急連絡先等の情報を記入し、プラスチック製の筒へ入れ冷蔵庫に保管いただくことで、もしもの際にスムーズな対応ができるものです。

多くの町内会がこのキットを活用した見守り活動や、災害時の名簿作成が行われています。この更新作業も、訪問の1つのきっかけとして活用いただくことがおすすめです。

今だからこそ生まれる新しい取り組み

感染状況等を踏まえながら徐々に活動再開を目指す動きや、新たな活動を立ち上げる動きも増えています。市内の一例をお伝えします。

【子ども食堂の取り組み】

ここ数年で耳にする機会の増えた「子ども食堂」という名称。子ども食堂とは、子どもが一人でも行ける無料または低額の食堂で、子どもへの食事提供から、孤食の解消、豊かな食材による食育、地域交流の場づくりと、目的や形態も多岐にわたります。（NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえホームページより引用・加工）

市内でもNPO法人やボランティア団体、個人の活動者が運営する数か所が開催されており、その内のいくつかは、コロナ禍で人とのつながりが薄くなり、経済状況も悪化している今だからこそ、みんなで食事を囲む喜びや子どもの健全な育成のため活動したいとの想いから新たに立ち上がったものなのです。



▲登別更生保護女性会で月に1度開催している「おにっこ食堂」の様子

※今号の6ページでは、驚別小学校区きずな推進委員会を主体に新たに立ち上げを目指す子ども食堂の取り組みについて特集しています。そちらもあわせてご覧ください。

できることから、一歩を踏み出す

人が集まる活動や居場所づくりはまだ慎重さが求められるものの、換気や席配置の工夫をしながら少しずつ再開していこうという動きが広がっています。コロナ禍で休止していたふれあい・いきいきサロンから、再開の相談も増えてきました。

必要な感染対策はもちろん大切ですが、今後は過度に警戒するのではなく、状況を踏まえてできることから活動の再開や充実を視野に検討していく時期を迎えています。

活動の実施や休止の判断等、悩ましい時には一緒に考えてみませんか。登別社協はこれからも、市民の皆さんと共に地域福祉活動を推進します。気軽に相談ください。

【市内での一例】

①これまでふれあい・いきいきサロンを定期的に実施していたものの、会場となる会館が小さいため感染対策の不安があり、コロナ禍になってから数年休止していた。

②参加していた方から「再開を楽しみにしている」との声もあり、またみんなで集まって交流できる場をつくりたいと、町内会役員で相談することとなり、社協も同席し検討。

③夏場なら窓やドアを開けて十分な換気を行えることから、まずは短時間でのおしゃべり会を開催することとなった。

④数年ぶりに仲間が集まり、小さなおしゃべり会を実施。今後も定期的集まりたい、こんなことがしたいと話が盛り上がり、感染策を講じ短い時間で定期的に行っていくこととなった。



▲サロン「スマイル」では、自席で参加者それぞれがぬり絵を楽しむメニュー等を実施し交流している

歳末たすけあい募金にご協力ください

運動期間 10月1日～12月31日まで

目標額 530万円



「NPO法人おにスポ」が、赤い羽根共同募金を応援する「赤い羽根サポーター宣言」をしてくださいました！サッカーのイベント時に募金箱を設置し、募金をしてくれた方へコンソードレのクリアファイルや缶バッジ等をプレゼントしました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました！

歳末たすけあい募金運動とは？

毎年12月に共同募金運動の一環として、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人たちが安心して暮らすことができるよう実施している募金運動です。

お寄せいただく募金は、すべて登別の福祉活動に活用されます。

歳末たすけあい募金の使いみちは？

〈このような事業を支援するために募金活動を行います〉

◆歳末見舞金贈呈事業

経済的支援が必要な世帯等へ見舞金を贈るために。

◆きずなのまちづくり助成事業

市民ボランティア団体等が行う福祉活動を応援するために。

◆ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等の生きがいと居場所づくりを進めるために。

◆小地域ネットワーク活動推進事業

町内会による見守り・支え合い活動を広げるために。

◆応急生活支援事業

災害・新型コロナウイルス感染症等の影響で生活困窮となった方を支援するために。

◆まごころお届けプロジェクト事業

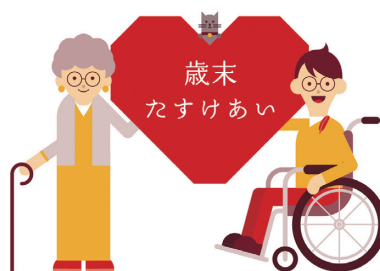
「まごころレター」の配布を通じ、地域住民と担い手のつながりを支援するために。

◆在宅介護支援事業

制度を利用できない人へ車いすや福祉用具の貸出を行うために。

募金の方法

町内会のご協力のもと、各世帯に歳末たすけあい募金の回覧と、募金用封筒を配布し、募金協力の呼びかけを行います。11月中旬以降にご案内いたしますので、皆さんのご協力をお願いいたします。



赤い羽根でつながる 優しさの輪



「じぶんの町を良くするしくみ」を
応援しませんか



じぶんの町を良くするしくみ。

共同募金運動は、じぶんの町を良くするしくみとして、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり」を目指し活動する住民や団体を支援するため、募金運動への参加や、寄付を通してまちづくりを応援していく民間の運動です。

市内で寄せられる赤い羽根共同募金の一部は災害時対応や福祉車両の購入等、全道的な支援に活用され、残りは翌年の登別の福祉活動を応援するために活用されます。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響により多くの行事や活動が中止・延期となっていますが、これからは新しい形で「人と人とのつながり」をより一層育み、互いに助け合っていくことが必要です。今後の地域福祉活動はこれまで以上に重要であり、共同募金は財政面で活動を支援するという大きな役割を担います。

応援の方法もたくさんあります。一人ひとりができるカタチで一緒にこのまちを思い、優しさの輪を広げてみませんか。

バッジをつけて応援！

例年、日本工学院北海道専門学校CGデザイナー科の1年生の皆さんにご協力いただき、寄付金付きのご当地バッジを制作しています。

市民の皆さまや、法人・企業等の社員の皆さまにバッジを着用いただくことで、赤い羽根共同募金のPRだけでなく、登別のPRや企業の地域貢献にもつながります。

1個500円で制作費を除いた額が寄付額となります。ご希望の方は左記取り扱い場所もしくは本会までご連絡ください。



1個 500円

「登夢くん」と「ツツジ」

登別商工会議所青年部(YEG)とコラボ!

《商品取扱い場所》

- ・登別市役所内母子会売店
- ・登別パークサービスタワー売店
- ・のぼりべつクマ牧場
- ・登別中央ショッピングセンターアーニス
- ・登別市民会館
- ・登別市社会福祉協議会

※お届けに伺うことも可能です。気軽にお問合せください。

登別市共同募金委員会(登別社協内)
平日9時から17時半 電話: 88-0860

寄付金付き商品・企画で応援!

寄付金付き商品・企画を通して募金するカタチで地域福祉に貢献する取り組みです。本業を活かした商品を開発・販売して売上の一部を赤い羽根共同募金へご寄付いただくことで、商品・企業のPRや地域貢献へつながります。

応援してくださる企業や法人、店舗等の皆さま、ご連絡をお待ちしています。

【例えば...】

自社製造している温泉饅頭1つの売上から一部を赤い羽根共同募金へ寄付する等



赤い羽根共同募金をPRして応援!

赤い羽根を着用した共同募金運動のPRをはじめ、施設・企業・事業所・商店等にポスターやのぼり旗を掲示し、広く市民に向けて周知していただく等、赤い羽根1本、ポスター1枚から気軽に始められる協力のカタチです。掲示いただける方は本会までご連絡ください。



Art by nio © CFM

《お詫びと訂正》社協だより157号の記載に誤りがありました。(誤)日本工学院北海道専門学校CGデザイナー科(正)日本工学院北海道専門学校CGデザイナー科訂正しお詫び申し上げます。

鷺別小学校区きずな推進委員会 子ども食堂開催を目指して

8小学校区ごとの「校区きずな推進委員会」では、それぞれの地域特性や課題を踏まえ、第4期校区きずな計画を策定し、計画に基づく活動を進めています。

鷺別小学校区きずな推進委員会では、これまでふれあい・子育てサロン「とくます」や、校区内の誰でも来られる地域の居場所「しゃべっ茶お」を立ち上げてきました。第4期校区きずな計画では「地域での子育て支援・子どもの健全育成」を掲げ、子どもを中心に多世代の住民が集い交流することのできる「子ども食堂」の実現を目指して検討を進めています。

これまでの経験を活かしながら、校区きずな推進委員や民生委員・児童委員、有志のボランティアが子ども食堂について学び研修会や、見学会、打ち合わせを重ね、食事提供等の本格的な開催の前段階として、鷺別小学校の児童を対象にした「子どもお楽しみひろば」を9月11日鷺別コミュニティセンターで開催しました。

当日は児童38名、付き添いの保護者22名の参加があり、ヨーヨー釣り、ストラックアウト、くじ引き等のゲームブースでボランティアの運営スタッフと笑顔で交流する姿が見られました。帰りにはお土産として、フードバンクゆめみくから提供を受けたクッキーと牛乳を手渡し喜ばれました。運営に携わったボランティアにとっても、地域の子どもの笑顔を間近で見られる、楽しい交流のひとつとなりました。

今後も鷺別小学校区らしい子ども食堂の実施に向け、話し合いを進めていきます。

鷺別小学校区子ども食堂 「とくます」

次回開催日：2022年11月3日(木・祝日)

11時から12時半

会場：鷺別コミュニティセンター

昼食内容：カレーライス(子どもは無料)

対象：鷺別小学校の児童



寄付者のご紹介 (2022年8月1日～2022年9月30日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付目的
2022.09.07	わしこうD愛好会	10,000	ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
2022.09.13	匿名	5,000	社会福祉のために
2022.09.30	佐藤 政勝	100,000	社会福祉のために

愛の小箱等設置協力者のご紹介 (2022年8月1日～2022年9月30日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	設置協力者名	寄付金額	種 別
2022.08.02	登別中央ショッピングセンター アーニス	900	ガチャガチャ
2022.09.01	登別中央ショッピングセンター アーニス	600	ガチャガチャ
2022.09.01	ふれあいの店	8,904	愛の小箱
2022.09.30	登別中央ショッピングセンター アーニス	500	ガチャガチャ

花ボラのぼりべつ道新ボランティア奨励賞受賞

福祉分野や市民活動分野において5年以上積極的に優れたボランティア活動を続けている道内の団体へ贈られる道新ボランティア奨励賞を、この度「花ボラのぼりべつ」が受賞しました。

花ボラのぼりべつでは、登別駅前や登別東町の国道36号線沿い等の美化活動を通して、住民同士つながりの輪を広げる活動をしています。

2006年、登別まちづくり促進期成会キラキラ部会が国道36号線沿いの緑化帯の花植えや草取り等の景観維持管理活動のためボランティア募集したことがきっかけで発足し、現在は会員それぞれが種から花の苗を育て、春から夏にかけて登別駅前や駅近くの交差点のプランターに植え、住民や観光客に喜ばれています。

6月の活動日には、花壇の草抜きと苗植えを行いました。休憩時間には参加者同士でお茶を飲みながら談笑する姿があり、この時間を楽しくも参加する方も多いとのことでした。

この度の受賞、おめでとうございます。



■団体からの声

花ボラのぼりべつ

志賀 俊哉さん

この度は「道新ボランティア奨励賞」をいただくことができ、会員みんなで喜んでいきます。

「花を育てる心・おもてなしの心・花いっぱいマチにしよう」という想いからお花好きな人達が集まり、年間約10回以上の草取りや花の手入れ・花の苗交換作業等をこれまで16年間行っています。休憩時間（モグモグタイム）にはお茶を飲みながら情報交換をして、和気あいあいと活動しています。

これからも奨励賞に恥じないよう、楽しみながらまちの美化のため活動していきます。ありがとうございました。



■ボランティアセンターにご相談ください

登別市ボランティアセンターは、様々な方からのボランティアに関する相談に応じ、情報提供を行いながら、ボランティア活動を「したい人」と「必要としている人」を結びつける場所です。その他に、ボランティアの理解・関心を深める取り組みや、活動者を増やすための取り組み、ボランティア活動の支援を行い、地域福祉の向上を目指しています。

お話を伺いながら、希望に沿ったコーディネートを行いますので、気軽ににご相談ください。

登別市ボランティアセンター（登別社協内）
平日9時から17時半 電話：88-2080

全国民生委員 児童委員連合会会長表彰受賞

この度、登別市内の民生委員児童委員協議会及び民生委員・児童委員が長年の功績により表彰されました。後日登別市内にて伝達式を行う予定です。

優良民生委員児童委員協議会表彰

活動実績や会議の開催、運営状況が優れている民生委員児童委員協議会に贈られます。

登別市民生委員児童委員協議会

永年勤続単位民生委員児童委員協議会役員表彰

地区会長・副会長の合計在任期間が17年以上の委員に贈られます。

畠山 基子（登別地区会長）

民生委員・児童委員功労者表彰

通算在任が20年以上の委員に贈られます。

松山 信昭（登別地区）、田代 健二（登別地区）、太田 通（中央西地区）、松平 孝子（鷺別地区）、南 康子（鷺別地区）、西村 美代子（美園・若草地区）、佐藤 文子（緑陽地区）

永年勤続民生委員・児童委員表彰

通算在任が10年以上の委員に贈られます。

真野 道夫（中央東地区）、笹森 明美（緑陽地区）、赤井 秀輝（緑陽地区）

まごころレター おもてなしのこころ

登別社協では2020年より、「まごころお届けプロジェクト」を実施しています。この取り組みは、地域に暮らす高齢者の介護予防や地域住民同士のつながりを維持することを目的として、毎月1日と15日に発行する「まごころレター」を、町内会役員や民生委員・児童委員、サロンサポート等が地域で見守りが必要な高齢者にポストへの投函等で配布するものです。

まごころレターには頭の体操と身体の体操を毎回掲載しており、身体の体操についてはJCHO 登別病院及び登別すずらん病院のリハビリテーション専門職の方々の監修のもと掲載しています。

現在市内64の団体や個人に参画いただき、毎月約3,300枚の配布が行われており、サロン活動を再開した団体では、まごころレターの体操を活動メニューとして実施する等、地域の特性に合った活用がされています。

まごころレターは、地域住民の手から配布しますので、ご興味のある方は地域の福祉活動実践者もしくは登別社協へお問い合わせください。



地元企業の社会貢献 望月製麺所によるラーメン

株式会社望月製麺所（新栄町）は、2019年より月に数回、登別社協デイサービスセンターの昼食に新たな21の調理場で茹で上げたできたてのラーメンやうどんを提供しています。

スープの濃さやトッピングは要望に合わせて対応しています。自分ではなかなか外食が難しくなってきた利用者の皆さんにとって楽しみにされており、喜びの声も多く聞かれ大変好評です。

代表取締役の望月一延さんは、「登別社協から話をもらった時、地域への貢献として協力したいと思った。利用者さんが喜んでくれるので嬉しい」と話してくれました。



地域のさまざまな課題を解決するため、異業種間での協働・連携による地域福祉活動の展開が求められています。登別社協では、住民・企業・法人との協働による取り組みの充実・強化を目指して、企業の社会貢献活動の相談や調整等を支援しています。

本会職員の不祥事についてのお詫び

本会職員（生活支援係所属）が、金銭管理を支援している利用者様の預金から現金を不正に取得していた他、貸付事業における償還金の着服及び民生委員・児童委員の預かり金に不明金が生じる事案が発覚し、9月16日の記者会見により公表いたしました。

利用者様、市民の皆様はもとより、本会事業にご協力いただいている皆様をはじめ、多くの関係者の信頼を著しく失墜させてしまう事態を招いてしまいましたこと、心から深くお詫び申し上げます。

本会といたしましては、被害を確認した3名の利用者様への謝罪と説明を行い、弁護士の指導のもと被害全額の一括返済の手続きを終え、当該職員が支援に携わった全ての利用者様の被害がないことを確認させていただきました。

引き続き、全容解明に向けて、償還金及び不明金の調査を早急に進めるほか、全ての被害状況が確定した際には、速やかにご報告させていただきます。

なお、皆様からお預かりする会員会費、寄付金、共同募金による事業会計については、適切に運営されていることを申し添えます。

今後は、二度とこのようなことが起きないよう信頼回復に全力を挙げるとともに、具体的な再発防止対策に取り組んでいく所存です。

どうか今後も登別市社会福祉協議会へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。